



北理研だより



< 186号 平成27年(2015年)7月6日 発行 >

主題説明会、実行委員研修会・授業検討会 報告

6月8日(月)に北野小学校において、「第1回実行委員研修会」を開催いたしました。当日は、大会授業者に授業公開をしていただき、その後、実践研究校の先生方と本会実行委員が集まり、10月の札幌支部大会に向けた授業づくりについて標記の会を行いました。

1. 全体会

開会にあたって、荒川巖副会長(日新小学校長)から「北理研では、問題解決の授業をしようと、日々教材研究をしたり、単元構成を考えたりしながら授業実践を行ってきている。今年は力を合わせて北野小学校の子どもたちのために研究を進めていきたい。」と挨拶がありました。

その後、本会会長でもある村上力成実践研究校校長から「北野小学校では、思考力の活性化、問題の発見やその解決に向けた協同的な学びを実現しようと、研究教科を社会科、算数科、理科と



した。昨年度、太田前会長から北理研札幌支部大会として本校理科部を支援するという申し出を受けた。これにより、本校理科部は北理研という強力な応援団を得たことになる。北理研会員が、授業観や学習観や子ども観を本校の職員に伝えてくれることを期待している。」という挨拶と職員紹介がありました。

北理研実行委員の紹介の後は、北野小学校の竹森授業改善部長による実践研究校の研究についての説明と、北理研の研究担当による、今後の研究推進についての説明がありました。



○北野小の研究について(竹森 仁司 北野小授業改善部長)

研究主題「自分らしさを発揮し、ともに高め合う子どもの育成」
～豊かなかかわり合いを通して学ぶ姿をめざして～

北野小学校では、学校教育の重点目標「学ぶ価値を生み、可能性を引き出す学校」の具現化に向け、本質的な学ぶ価値を追求し、学習課題に対して受け身にならず、主体的に学ぶ子どもを育てることを目指すために、以下のような研究主題、副主題、視点を設定しているとの説明がありました。

研究主題「自分らしさを発揮し、ともに高め合う子どもの育成」

- ① 自分らしさ…課題に対して主体的に考えたり行動したりする姿
- ② とともに高め合う…子どもたちの中に、質的変容が見られること

研究副主題「豊かなかかわり合いを通して学ぶ姿をめざして」

三つのキーワード「思いをもつ」「かかわる」「高まる」



研究の視点

視点1

子どもの思いがふくらむ教材化

- ・興味・関心を引き出す学習活動の工夫
- ・思考が活性化する学習展開や単元構成

思い

視点2

子どもたちの豊かなかかわり合いを促す教師の支援

- ・かかわり合いの必要感が生まれる働きかけ
- ・子どもの考えの価値付け

○推進計画等説明（播磨 義幸 北理研研究部長）

札幌支部大会に向けて、播磨義幸・北理研研究部長が北理研の考える理科の授業の在り方などを説明し、鈴木圭一・北理研研究副部長から、今後の研究推進の日程について説明しました。



・北理研が目指す授業づくり

理科の授業において、子どもが本気で自然に働きかけるほど多様な結果となり、多様な見方や考え方が表れる。

北理研では、子どもの主体性と多様な表れを大切に授業づくりを行いたい。

・研究主題について

「科学の可能性を見いだす」…失敗や間違いなどに価値をもたせる

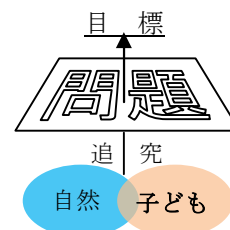
「自然と向き合う問題解決」…自然から離れずに働きかけの工夫を重ねる

・子どもの目標に着目した授業づくり

子どもの目標を大切に授業とは、子どもの主体性を引き出し、学習内容だけではなく、問題解決の資質能力も高めていこうとするものである。

・子どもの問題解決について

子どもの問題解決は、与えられるものではなく、目標に向けた追究の過程で子どもの中に生じるものである。目標に向けた追究が意図した通りに進まないとき、子どもはその状況を乗り越えたいと考え、繰り返し自然に働きかける。このような状況に子どもを向かわせることが大切である。



2. 授業検討会

全体会終了後、学年部会毎に授業検討会を行いました。



3年生部会「風やゴムのはたらき」

単元構成についてはこれから練っていかなければならないが、ゴムを「引く」のではなく「ねじる」ことで力を蓄える活動を軸に追究の道筋を作っていきたい。ゴムが切れそうだったり、手応えが強くなったりするなど、実感を伴った学習から3年生の学びの可能性を探っていきたいという話し合いが行われた。

4年生部会「もののあたたまり方」

「もののあたたまり方」の授業構想について説明された。目標を定め、みんなで一つの事を目指すような実験をすることで、「思い」が生じ、目標の達成に向け多様な考えを引き出すことができるだろうという話し合いが行われた。何度も実験を繰り返しながら、細かい部分に気付いていく子どもの姿を大切に授業づくりを行う。



5年生部会「もののとけ方」

教科書通りの実験結果を得られない場面や、生活になじみのないミョウバンの提示の仕方など、理科の学習における困り事を中心に意見交流がなされた。失敗や間違いをいかに価値付けるかが話題になった。もののとけ方の学習では、温度と溶け方の関係を意識し、先生方も楽しめる授業づくりを目指していくこととなった。

6年生部会「水よう液」

部会が目指す授業像と、授業者が理想とする子どもの姿が、継ぎ目なく追究を続ける子どもの姿の具現化という点で一致した。5年生での学習経験を土台に、水溶液に何が溶けているのかということを追究の軸にした学習を目指していくこととなった。素直で細やかな北野小の子どもたちが、必要感をもって関わり合うことを大切にする。

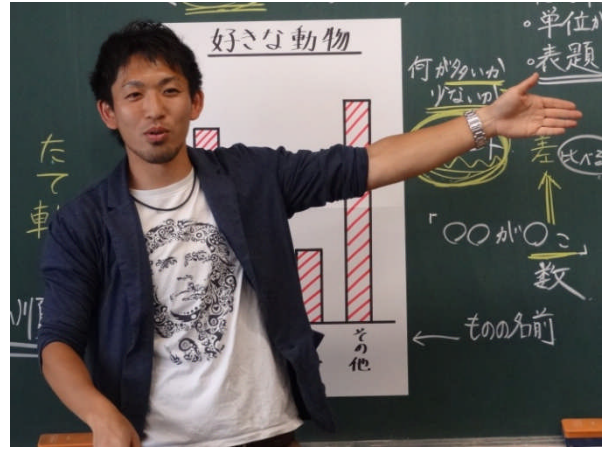


3. 授業者の紹介

第1回札幌支部大会では、以下の先生が授業実践をしていただきます。



一次公開
「風やゴムのはたらき」
3年2組 青柳 大介 先生



一次公開
「もののあたままり方」
4年2組 山田 佳輝 先生



二次公開
「もののとけ方」
5年2組 南口 靖博 先生



二次公開
「水よう液」
6年1組 稲田 弘祐 先生

北海道小学校理科研究会 事務局長
永田 明 宏 (札幌北小学校長)
Tel.791-3831 Fax.791-8163
e-mail : akihiro.nagata@city.sapporo.jp

担当：三浦 貴 広 (広報部長)
もみじの森小学校 Tel.803-7810
Fax.898-3344